

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月14日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520198

研究課題名（和文） 演劇文化形成の観点による歌舞伎資料の研究

研究課題名（英文） Study of data on KABUKI from perspective of developing theatrical culture

研究代表者

河合 眞澄（KAWAI MASUMI）

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：00169674

研究成果の概要（和文）：大阪府立大学所蔵の椿亭文庫（日本近世演劇を中心とする土田衛氏旧蔵の文献資料）のうち、番付（配役を中心とする上演の一次資料）・絵づくし（挿絵を中心とする筋書）の目録を整備し、刊行した。また、同文庫中の台帳（江戸時代の歌舞伎脚本）『扇矢数四十七本』の翻刻・解題および関連する役者評判記の記事や初演時の番付・絵づくしを活字化して紹介した。さらに、この作品の演出について、画像化によって考察した。

研究成果の概要（英文）：We made a catalogue of programs and summaries with pictures in the Chintei collection (the documents about Kabuki which were owned by Prof.Tsuchida Mamoru) which is now in the library of Osaka Prefecture University. We also published a reprint and explanatory notes on "Ougi-yakazu 47hon" and introduced the programs and summaries with pictures about it. Moreover, we studied the stage effects of the drama by graphics.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：歌舞伎・台帳・絵入狂言本・役者評判記・椿亭文庫

1. 研究開始当初の背景

(1) 歌舞伎をはじめとする近世演劇に対する国際的な関心が高まっている現状にあって、近世演劇関係の資料はかなり整備されてきている。しかし、まだ資料紹介の段階にとどまっていて、既刊資料の利用はいまだ不十分であり、実証的な研究がなされておらず、

演劇文化形成という広範な視点からの資料を活用した研究が要求されていた。

(2) 大阪府立大学には、近世演劇資料がその大部分を占める椿亭文庫が所蔵されているが、その紹介はまだ一部にしかすぎず、目録も整備されていなかった。そのため、整理

検討の第一段階として、保存環境を良好に保ちつつ、目録を早急に作成する必要があった。また、椿亭文庫には孤本の歌舞伎台帳（脚本）等が収蔵されており、歌舞伎の演出等、作品の全体像を把握する貴重な資料として、考察する意義が認められた。

(3) 近年、画像資料の研究が重要視されるようになってきている。近世演劇研究においても、画像資料に配慮することは不可欠となっているが、継続的に多数の出版があった役者評判記の挿絵の研究は、いまだ皆無に等しい。絵入狂言本等、他の画像資料についても同様の状況にある。そこで、当時の出版文化を考える上からも、まず役者評判記の挿絵研究に着手することは、喫緊の課題となっていた。

2. 研究の目的

(1) 椿亭文庫の蔵書を中心に、台帳や絵入根本（挿絵をともなう台帳の版本）を素材として、作品の内容を深く読み込み、演出携帯を推測する。その際、番付（配役等の上演時の資料）等の他の上演関連資料を援用することにより、江戸期の歌舞伎演出の実態を総合的に明らかにする。

(2) 椿亭文庫の中で未整理であった番付や絵づくし（挿絵による筋書き本）の目録を作成する。すでに立命館大学アート・リサーチセンターによって、椿亭文庫に収められている番付等の一枚刷り資料が、デジタル・アーカイブとして公開されているが、この画像資料との情報の連携を図り、演劇文化形成考察のための資料を充実させる。

(3) 役者評判記の挿絵を多数収集し、個別の歌舞伎演目の実態を推察する資料とする。そのために、画像資料である役者評判記の挿絵の信頼度を考察して行く。それとともに、役者評判記の挿絵を、絵入狂言本や絵づくし等、他の歌舞伎関係資料に収められている画像資料と比較検討し、役者評判記の挿絵の位置づけを確実なものとする。

3. 研究の方法

(1) 椿亭文庫所蔵の番付・絵づくしの悉皆調査を実施し、その情報を電子ファイルにデータ化し、目録を作成する。立命館大学アート・リサーチセンターで公開されている画像資料の情報にもとづき、近世演劇研究を専門とする研究協力者2名（森谷裕美子・川端咲子）を中心として、情報を補訂する。この全体を研究代表者が監修し、正確な目録を刊行し、椿亭文庫の資料を広く知らしめる。また、

その際、今後の椿亭文庫の利用の便を図って、年代別に整理し保存する。

(2) 椿亭文庫所蔵の歌舞伎台帳・絵入根本を翻刻し、他機関の所蔵する番付・絵づくし・役者評判記等の関連資料も併せて収集し翻刻する。本課題研究においては、台帳『扇矢数四十七本』を取り上げる。研究代表者がこれを翻刻し、研究協力者4名（森谷裕美子・川端咲子・松葉涼子・淵田恵子）が各地の大学・研究所等に所蔵されている関連資料の収集にあたる。

(3) ①上記(2)にもとづいて『扇矢数四十七本』の研究会を開催し、この作品を叩き台として、本文を熟読し、江戸時代の歌舞伎演出を推測する。関連作品の台帳や番付等を参考資料として、台帳の省筆部分を考え、極力具体的に作品の全体像を推測する。

②この際、台帳本文から推測される舞台面のデジタル画像資料を研究協力者が作成して、登場人物の登退場など、演出の一部を可視化する。演出の不明な部分については、現行の歌舞伎演出を参考として考える。

(4) ①役者評判記の挿絵は小さくて細部が見づらいため、拡大資料を作成する（約700点）。一点ずつを詳細に検討し、役者評などの文字資料との比較により、挿絵に描かれている内容が実際に上演されたものかどうかを検討し、信頼度を確定する。

②同一興行に対して二種以上が出版されている役者評判記の挿絵にとくに注目し、比較することによって、さらにその信頼度を確実なものとする。そこから、当時の出版界をリードしていた八文字屋と江島屋の競争についての戦略をも探って行く。

4. 研究成果

(1) ①椿亭文庫所蔵の番付・絵づくしの情報を網羅した「椿亭文庫所蔵歌舞伎番付目録」を刊行した。これにより、椿亭文庫の存在が広く知られるようになり、閲覧希望者が増加した。

②また、立命館大学アート・リサーチセンターによるデジタル・アーカイブ（椿亭文庫の一枚刷りの画像資料）の利用がいっそう便利なものとなり、このデジタル・アーカイブの情報の誤りを訂正して正確な情報を得られるようになった。

(2) ①研究代表者は、椿亭文庫所蔵の台帳『扇矢数四十七本』を翻刻し、解題を付した。『扇矢数四十七本』の活字化による翻刻紹介はこれが最初であり、近世演劇資料の充実の観点からして価値のあるものである。この作

品は忠臣蔵物の初期の作品であり、関連する歌舞伎作品は数多く、今後は関連作品との関係などから、新たに作品の全体像を推測して行くことができるものと考えられる。

②また、この作品の上演に関連する番付・絵づくし・役者評判記も、研究協力者が併せて翻刻紹介した。台帳本編と関連資料を総合的に考察することができるようになり、今後、演出の変遷を考察する際の手がかりとなる。

(3) 演出考察のためのデジタル資料を作成した。具体的には、『扇矢数四十七本』台帳のト書きから判明する大道具の位置や登場人物の登退場を画像化し、当時の演出を総合的・立体的に推測した。台帳の記述のみで不明な部分は、現在の歌舞伎の常套的な演出を参考にして推測した。画像作成による演出の考察という方法は、これまでに例を見ない画期的な方法と考えられる。

(4) ①同一興行に対して二種以上が出版されている役者評判記を選び、一点ずつを子細に検討した。その結果、挿絵中の評語が特定の役者に付されたものであること、二種の挿絵で構図等が酷似するものがあることなどが判明した。これらは従来まったく考察されていなかった事柄である。

②ここから、さらに当時の本屋（出版社）の出版戦略（刊行時期を急いで先手を取るか、後発でも情報量を充実させるかという相違）までを推測することができた。今後は、さらに挿絵の検討を行うことにより、出版文化の中における演劇資料の位置づけを明らかにすることができるものと思われる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

① 原道生・河合眞澄・川添裕・倉員正江、「座談会・身体芸能と西鶴・浮世草子の時代」、査読無、西鶴と浮世草子研究、第5号、2011、14-71p

② 河合眞澄、「椿亭文庫蔵『扇矢数四十七本』-解題と翻刻-（四）」、査読無、上方文化研究センター研究年報第12号、2011、1-4p

③ 森谷裕美子、「『扇矢数四十七本』の評判」、査読無、上方文化研究センター研究年報第12号、2011、5-23p

④ 河合眞澄、「近世文学と『伊勢物語』」、査読無、伊勢物語 成立と享受2（伊勢物語 享

受の展開）、2010、486-510p

⑤ 河合眞澄、「椿亭文庫蔵『扇矢数四十七本』-解題と翻刻-（三）」、査読無、上方文化研究センター研究年報、第11号、2010、1-23p

⑥ 森谷裕美子、「『扇矢数四十七本』の評判」、査読無、上方文化研究センター研究年報、第11号、2010、24-33p

⑦ 河合眞澄、「椿亭文庫所蔵歌舞伎番付目録」、査読無、上方文化研究センター研究年報、第10号別冊、2009、1-114p

〔学会発表〕（計3件）

① 河合眞澄、浄瑠璃に見る女同士の義理-『心中天の網島』のおさんと小春-、大阪府立大学女性学研究センター日韓シンポジウム、2011年12月18日、大阪府立大学中之島サテライト

② 河合眞澄、役者評判記の挿絵に見る出版・上演状況、演劇研究会、2011年11月19日、同志社大学

③ 河合眞澄、歌舞伎と諸芸能、日本近世文学会、2009年11月8日、関西学院大学

〔図書〕（計1件）

①原道生・河合眞澄・倉員正江編、笠間書院、『西鶴と浮世草子研究』第5号「芸能」、2011、363p

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合 眞澄 (KAWAI MASUMI)

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：00169674

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

森谷 裕美子 (MORIYA YUMIKO)

学習院大学・文学部・非常勤講師

松葉 涼子 (MATSUBA RYOKO)

日本学術振興会・特別研究員

淵田 恵子 (FUCHIDA KEIKO)
大阪府立大学・人間社会学研究科修士課程

川端 咲子 (KAWABATA SAKIKO)
神戸女子大学・文学部・非常勤講師